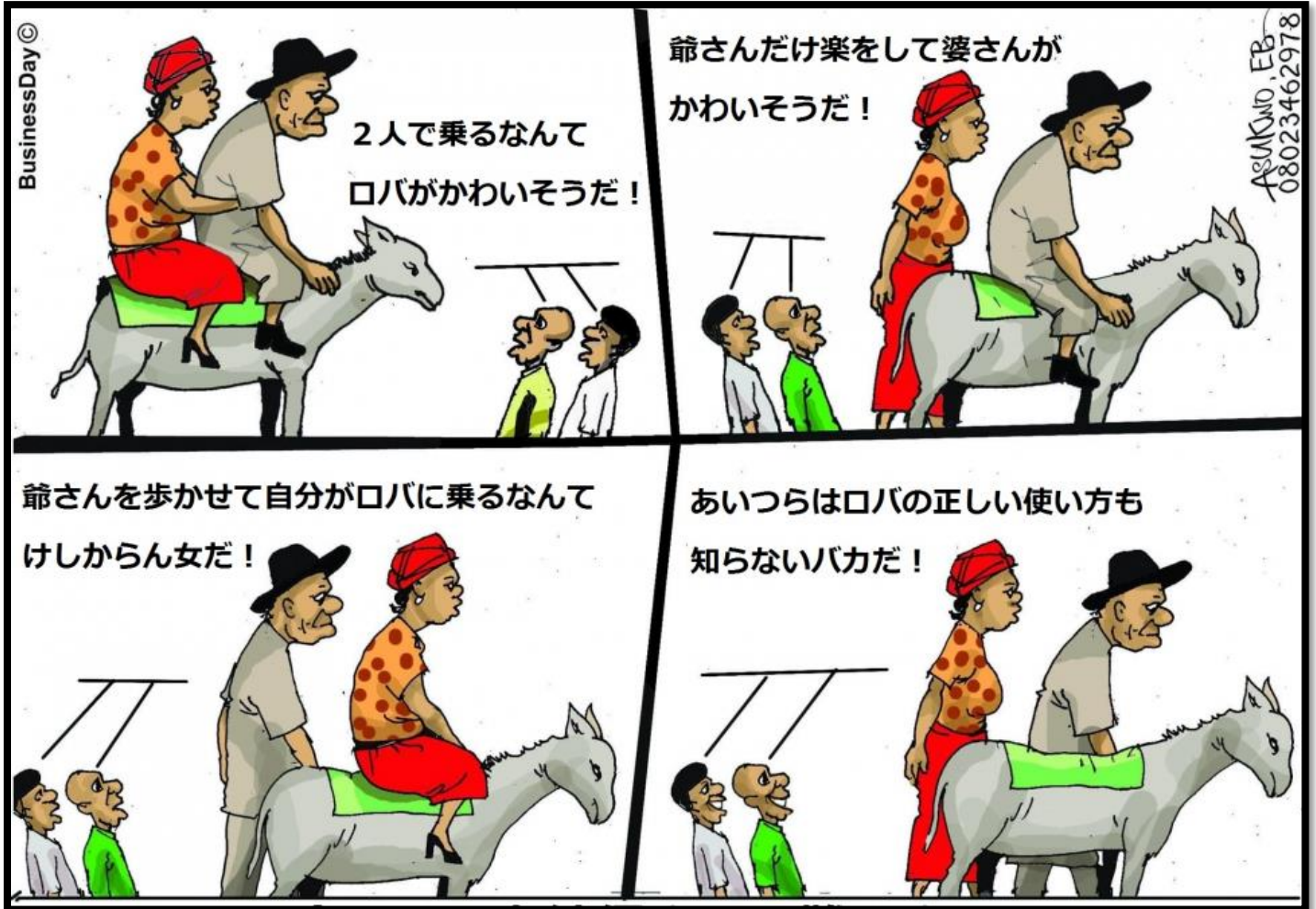


～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

★『ロバと老夫婦』の話を覚えていますか？★



昨年度のSAH講演会で、中山芳一准教授が『ロバと老夫婦』のお話を紹介していましたが、2,3年生は記憶に残っているのでしょうか？1年生もどこかで聞いたことがありますか？ちょっと詳しくご紹介します。

この話は、2020年のトヨタ株主総会で、豊田章男社長（当時）が発言し話題となったようです。

老夫婦がふたりでロバに乗っていると、まわりの人にこう言われました。「二人も乗って、ロバがかわいそうだ」。今度は、老夫がロバに乗って老婆が歩いているとこう言われました。「威張った老夫だ。老婆がかわいそうだ。」と。今度は、老婆がロバに乗って、老夫が歩いていると、こう言われました。「あの老夫は老婆に頭が上がらないんだ」と。最後にロバと一緒にふたりで歩いているとこう言われました。「ロバがいるのに乗らないのか？」と。

豊田社長から突然はじまったロバの話に会場は聞き入りました。そして、豊田社長は話を続け“例え話”の意味を解説しました。

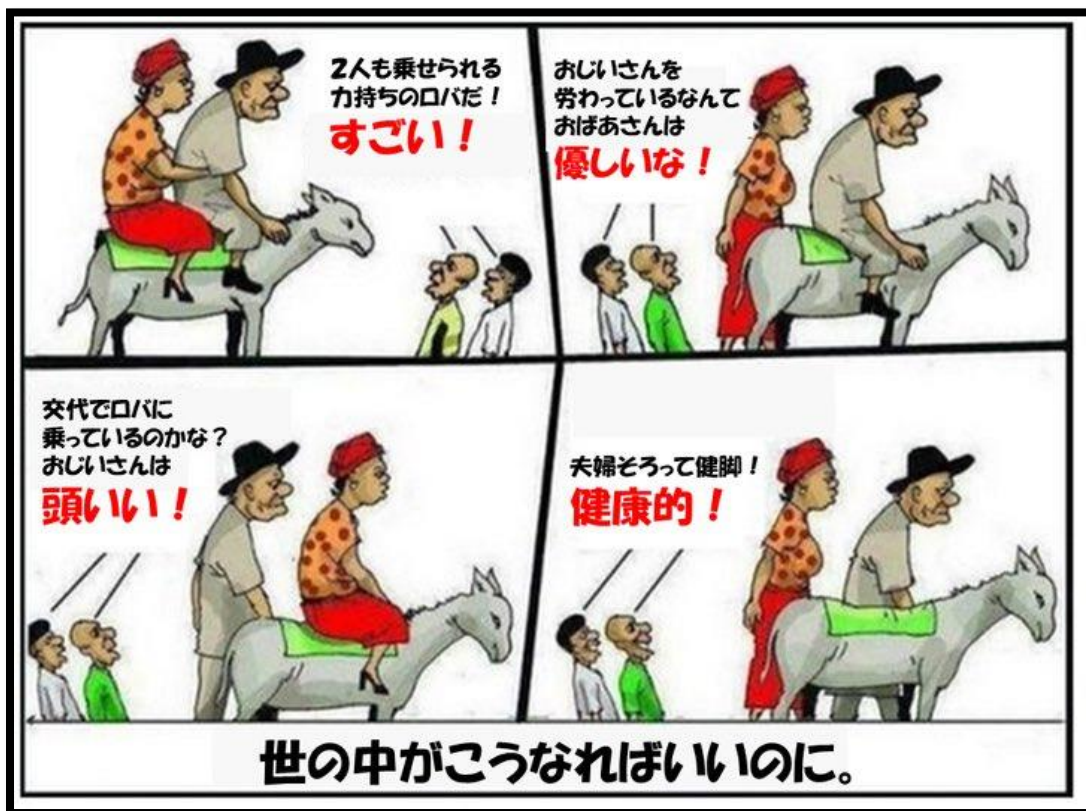
『要は「言論の自由」という名のもとに、何をやっても批判されるということだと思います。最近のメディアを見ておきますと「何がニュースか？は自分たちが決める」という傲慢さを感じずにはられません。「一億総ジャーナリスト」と言われるくらい誰もが情報を発信できる時代です。』

『情報によって人を傷つけることもできれば、元気にすることもできると思います。大切なことは、「その情報を伝えることによって、何を実現したいのか」ということだと思います。もっと言いますと、「どんな世の中をつくりたいか」ということです。』とも語っています。

豊田社長は、『どんな決算発表をしても、批判する人はする』『しかし、トヨタは世の中が少しでも元気になるような情報を発信した』という強い信念を持って、決算発表を行ったのだと思います。

「全ての人を納得させることは難しい」
「みんな考え方が違う」
「何をやっても批判される」
「全員から100点をもらうことはできない」 かもしれません。

しかし、『世の中が少しでも元気になるような』という『熱い想い』があるのなら『勇気をもってやってみよう』ということだと思います。私たちがなにかを始めるときに、周りの人にいろいろ言われると自分の考えに自信がなくなり、不安を感じるでしょう。しかし、そんなときには豊田社長の言葉：『何を実現したいのか』『どんな世の中をつくりたいか』、すなわち『どんな前南にしたいのか』ということに重きを置いてはいかがでしょうか？批判を恐れずに『行動』することも大切な力です。



左の絵は『世の中がこうなればいいのに。』というタイトルがついた「ロバと老夫婦」の別バージョンの絵です。

批判をする前に、その行為を行っている人の『信念』や『想い』を想像することで、『好意的に解釈する』こともできるはずですよ。前南では『この素晴らしい状態』ができていく気がします。勇気をもって行動した仲間へ寄り添い賛同し、協力する姿に何度もおじさんは感動させていただきました笑！

(教頭 星野 亨)

★校長より★

「自分の興味関心とは異なる方向で努力をしている人」や、「自分とは異なる考えを持って努力をしている人」を応援できる人になってほしいと思います。色々な人がお互いに認め合える集団は「安心して頑張れる集団」になります。また同時に、色々な人を認めることができる人は、たくさん人からプラスの刺激を受けることができ、今度は自らを高めることができます。前橋南高校が「安心して頑張ることができ」、「お互いを認め合い、お互いを高め合う」集団であってほしいと思います。

校長 原 拓史